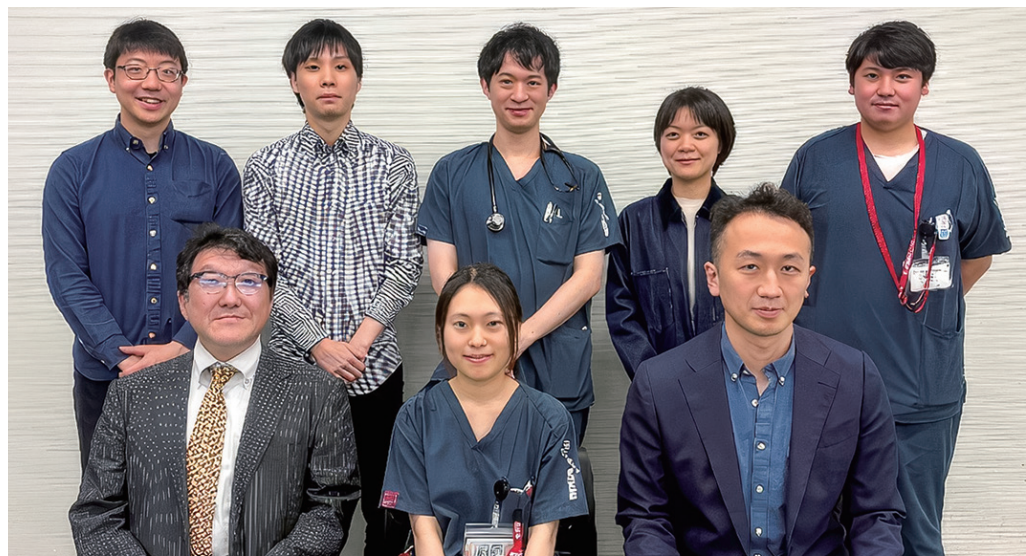


総合診療専門研修プログラム

地域医療を支える
オールラウンダーを育てるプログラム

募集定員
6名

研修期間
3年



県立延岡病院
総合診療科
医長 榎田 一旭



総合診療科学講座
教授 佐土原 道人

責任者からのメッセージ

2040年、皆さんが40歳前後の頃。外来や入院のニーズが今と様変わりし、医療と介護の複合ニーズのある患者が増えると言われています。地域の住民が求めているのは、信頼できる医師、何でも相談できる医師。そんな住民に求められる総合診療能力を身につけるひとつの手段として、総合診療専門医があります。今後需要が増える在宅医療も学ぶことができます。向こう30年で日本で最も求められる医師・引く手あまたの総合診療と一緒に学んでみませんか。

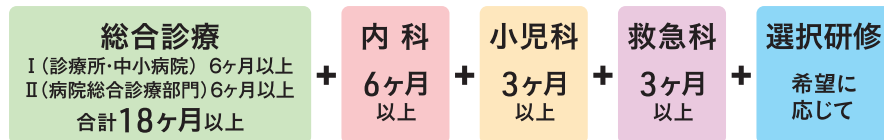
プログラムの特徴

2021年度よりALL MIYAZAKI体制として宮崎県内の総合診療専門医を養成しています。病院総合診療(ホスピタリスト)や家庭医療の両面を学ぶことができます。専攻医は県下のそれぞれの病院で実地研鑽を積みながら、Webを活用した月2回の自主勉強会、四季セミナー等を通して、off-the-jobトレーニングで学びを深めることができます。研修先については、地域枠・自治医科大学出身等の個々の事情に合わせてプログラム制・カリキュラム制も含めて柔軟に対応しています。プログラム終了後は、地域医療をはじめ、教育や研修の場で活躍しています。



連携施設名等

ALL MIYAZAKIプログラム



基幹病院

① 県立延岡病院(総合診療II、小児、救急)

連携施設

- ② 県立宮崎病院(内科、救急、小児科)
- ③ 古賀総合病院(総合診療II、内科)
- ④ 宮崎市協病院(総合診療I・II、小児)

- ⑤ 都農町国保病院(総診I・II)
- ⑥ 宮崎大学附属病院(救急)
- ⑦ 都城市医師会病院(救急)
- ⑧ 高千穂町国保病院(小児科、内科、総診I・II)
- ⑨ 県立日南病院(内科)
- ⑩ 小林市立病院(総診II)
- ⑪ 美郷町国保西郷病院(総診I・II)
- ⑫ 椎葉村国保病院(総診I・II)
- ⑬ 西米良診療所(総診I)
- ⑭ ホームクリニックみまた(総診I)
- ⑮ 緑・在宅クリニック(総診I)
- ⑯ 西都児湯医療センター(総診II)
- ⑰ 飯塚病院(内科、総診II)
- ⑱ 穎田病院(内科、総診I)

2026年4月現在



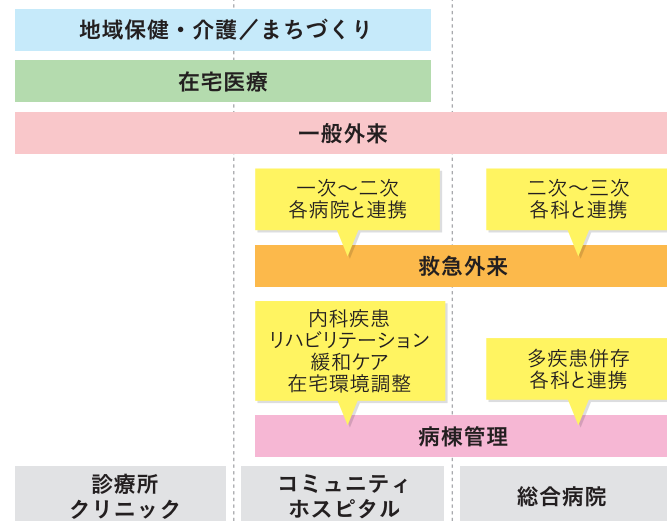
取得可能な専門医資格および技能

- 総合診療専門医
- 新・家庭医療専門医
- 病院総合診療専門医

プログラム達成目標

- 高い頻度で遭遇する症候・疾病に対する適切な初期対応能力を獲得し、その知識スキルをEBMの実践を通じて継続的に高め、かつ指導出来るようになること
- 単独専門科で対応困難な複雑性が高く未分化な健康問題に対して、不確実性を受入れ、継続的な医療・ケアを提供出来るようになること
- 患者の属性や医療機関・地域の規模を問わず、外来・病棟・救急・在宅等様々な現場で、その場に即した総合診療を提供出来るようになること
- 日常診療を通じて、目の前の患者や家族・地域に適切な予防医療を提供出来ること
- 患者家族の健康問題に対して、患者中心の医療等の枠組みを使用して全人的な評価・実践を行えるようになること
- 医療機関内での多専門科及び多職種との連携に留まらず、地域の医療・介護・福祉と適切に協働し、地域包括ケアを実践する能力を習得すること
- 一患者のケアに留まらず、地域全体の健康問題に対するニーズを把握し、解決を図ることで地域全体の健康向上に寄与する働きが出来る人材になること
- 医療者としてのプロフェッショナリズムを常に意識し、行動出来る人材になること
- 総合診療を含めた医療の発展に貢献するために、教育者・研究者としての役割を担える人材になること

ニーズに合わせて役割を果たす



主要症例名と実績数

小児～成人の一般的な症候に対するプライマリ・ケア、慢性疾患・多併存疾患の長期外来管理及び増悪時の入院管理、一般的な感染症の診療、救急科と協働した急性期診療、複雑困難事例、未分化な事例(不明熱・原発不明がん等)、緩和ケア、終末期ケア、医療的ケア児の移行ケア、在宅医療、予防医療、地域健康教育活動など

プログラム紹介動画はこちら



指導医からのメッセージ



早川 学

私は“最強の総合診療医”になることを目指しています！
私の中で“最強”とは、診療所・在宅医療～

総合病院までどんな規模の医療機関でも働く能力を有し、医学生～初期研修医・専攻医のどんな学年にも適切な指導が可能で、学会発表や論文執筆もきちんと行い、その指導もできる医師をイメージしています。もちろん私自身もまだまだ“最強”への道りは遠いのですが、我々はそのような医師になることが可能となる、素晴らしいプログラムを用意しています。ぜひ一緒に“最強の総合診療医”を目指しませんか？ お待ちしています！

先輩からのメッセージ



徳地 舜平

些細な問題であっても丁寧に拾い上げ、アセスメントとマネジメントを欠かさない診療に魅力を感じ、総合診療医を志しました。現在は少しずつではありますが、着実に専攻医・専門医も増え、県立病院から僻地の医療機関まで、さまざまな場で活躍しています。ご興味のある方は、短期間でも構いませんので、ぜひ実習や研修を通して、身近な総合診療医の日常に触れてみてください。(写真は、椎葉村で勤務していた際に、平家祭りへ参加したときのものです。)



茂田 実実佳

幅広い疾患を見る診療科であるからこそ日々パターン化しない診療ができる点や“疾患”だけでなく患者さんと“人”として

関われる点に魅力を感じ総合診療科に進みました。総合診療科って難しそう、優秀じゃないと、という声をよく聞きますが、当プログラムでは手厚い指導医のもと、チームで相談しながら診療させて頂けるのでその心配は無用です！また、診療内容だけでなく、働きやすさも当科の魅力の一つです。ママさんDrが多く、男性医師の育休取得率も高いなど家庭と仕事の両立をされているロールモデルがたくさんいるので、自分にあった働き方を見つけていくことができると思います。少しでも興味がある方はぜひご連絡ください！

お問い合わせ先

担当：佐土原 道人

T E L : 0985-85-9809
F A X : 0985-85-9805
e-mail : soushin@med.miyazaki-u.ac.jp